

平成29年5月16日

平成29年度病虫害発生予報第2号

長崎県病虫害防除所長

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病（葉いもち） イネミズゾウムシ	並 並	並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病（ <i>G. cingulata</i> ） ハダニ類	少 並 やや多	少 並 やや多
アスパラガス	アザミウマ類	並	やや多
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 － やや少 並 －	並 並 並 並 やや多 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシマルカイガラムシ （防除情報第5号） ナシヒメシンクイ	少 少 並 やや多	やや少 やや少 やや多 やや多
なし	黒星病 （注意報第2号） アブラムシ類	多 やや多	多 やや多
ぶどう	黒とう病 チャノキイロアザミウマ	やや多 並	やや多 やや多
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ カンザワハダニ	並 やや少 並 並 並 やや少 やや少	並 並 並 やや多 やや多 並 並

【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

早期水稻

1. いもち病 (葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

2. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(39筆)の結果、食害発生圃場率は43.6%(38.5%)、食害株率は8.2%(5.4%)、1株当たり寄生成虫数は0.0頭(0.0頭)であった。

イ 5月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は34.0%(39.8%)、成虫の寄生は認めなかった(0.0頭)。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(28筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率8.5%、発病株率1.5%)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(28筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 雨除けビニルが設置可能な圃場は必ずビニルを設置する。

イ 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。

ウ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。

エ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

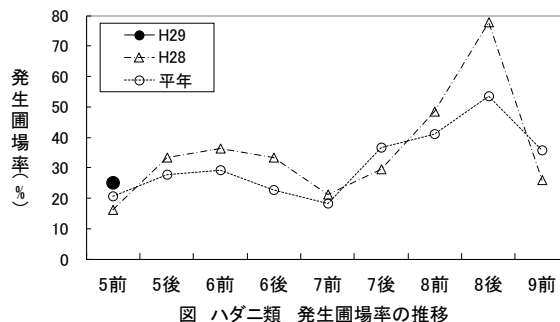
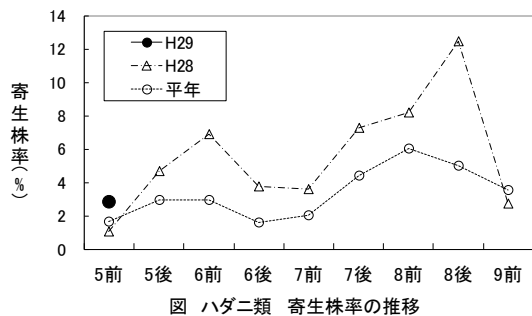
発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(28筆)の結果、寄生株率は2.9%(1.6%)、発生圃場率は25.0%(20.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 薬剤感受性が低下しやすいので、系統の異なる薬剤(平成29年長崎県害虫防除基準P210~213の「作用機構による分類(IRAC)」参照)をローテーション散布する。なお、薬剤感受性低下の恐れが少ない気門封鎖剤を活用する場合、これらの薬剤は卵に対する効果が低いので5~7日おきに連続散布を行う。



アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(11筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は8.1頭(6.5頭)、発生圃場率は72.7%(72.7%)であった。

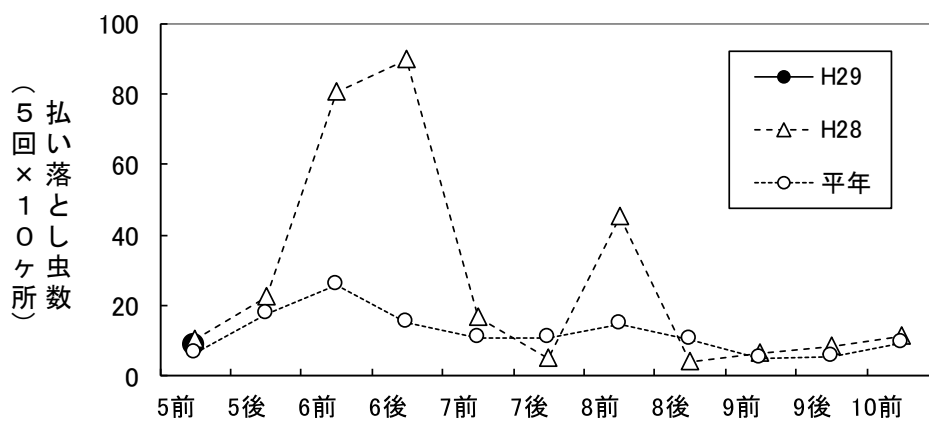


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(平成29年長崎県病害虫防除基準

P276～277の「作用機構による分類（IRAC）」参照の薬剤を連用しない。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率0.1%（0.0%）、発生圃場率5.6%（2.6%）であった。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（36筆）の結果、発生を認めなかった（発生葉率0.0%、発生圃場率0.6%）。

3. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

向こう1か月の降水量は、平年並か少ない見込みである。

4. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率0.6%（1.9%）、発生圃場率は13.9%（25.1%）であった。

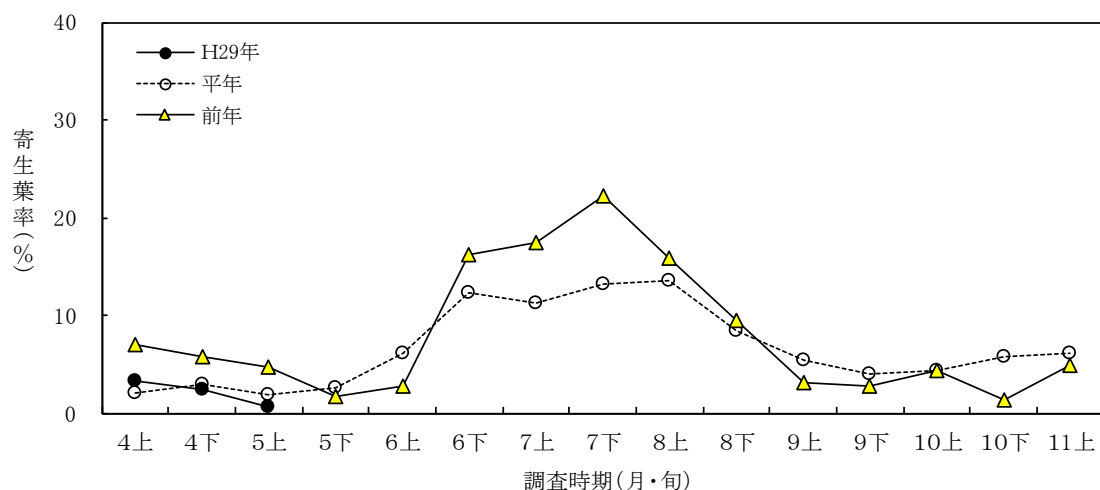


図 ミカンハダニ寄生葉率(巡回調査)

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並で推移している（図）。
 イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

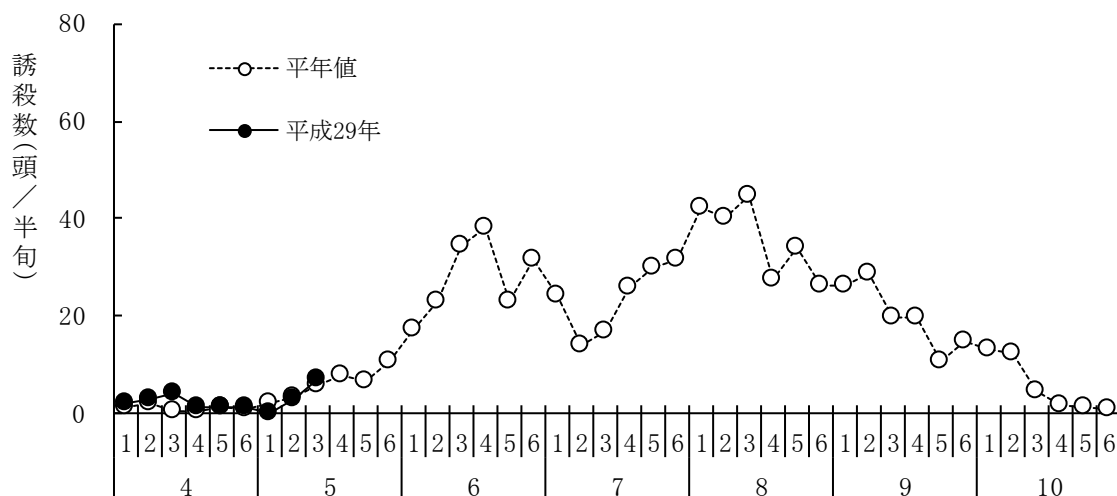


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
 (諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 第2～3世代成虫の発生時期は下表のとおりと予測される。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第2世代	6/5	6/7	6/12	6/6	6/16
〃 (平年)	6/9	6/16	6/16	6/11	6/22
〃 (前年)	5/30	5/31	6/7	5/31	6/11
第3世代	6/28	6/30	7/6	6/29	7/9
〃 (平年)	7/1	7/7	7/9	7/2	7/14
〃 (前年)	6/22	6/23	7/1	6/23	7/4
標高(m)	27	4	43	10	58

注1:発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。
 なお、積算には2017年5月12日までは観測値を、以降は平年値を使用した。
 注2:同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

- イ 表の予測発生ピーク日5日前から発生ピーク日に薬剤散布をすると防除効果が高い。
 ウ 発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。
 エ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

6. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

平成28年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査(21園)の結果、ヤノネカイガラムシの寄生果率は0.0%(0.2%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

下表に示した初発生予測に基づき、使用する薬剤に応じて適期に防除する。

表 ヤノネカイガラムシ初発生の予測

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/6	5/7	5/7	5/6	5/7	5/6	5/8	5/8	5/6	5/8	5/9	5/8
前年予測日	5/4	5/6	5/5	5/4	5/5	5/5	5/7	5/7	5/5	5/7	5/9	5/8
IGR剤防除日	5/31	6/1	6/1	5/31	6/1	5/31	6/2	6/2	5/31	6/2	6/3	6/2
有機リン剤防除日	6/15	6/16	6/16	6/15	6/16	6/15	6/17	6/17	6/15	6/17	6/18	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1: 方法は「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」を使用した。

注2: 初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(1月1日～4月30日)を用いて算出し、防除適期はIGR剤で初発日の25日後、有機リン剤で40日後とした。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期が遅れることがあるので注意する。

び わ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.5%、発生圃場率22.5%)。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率1.8%、発生圃場率32.5%)。

3. ナシマルカイガラムシ

平成29年5月16日付け**病害虫発生予察防除情報第5号**による。

4. ナシヒメシクイ

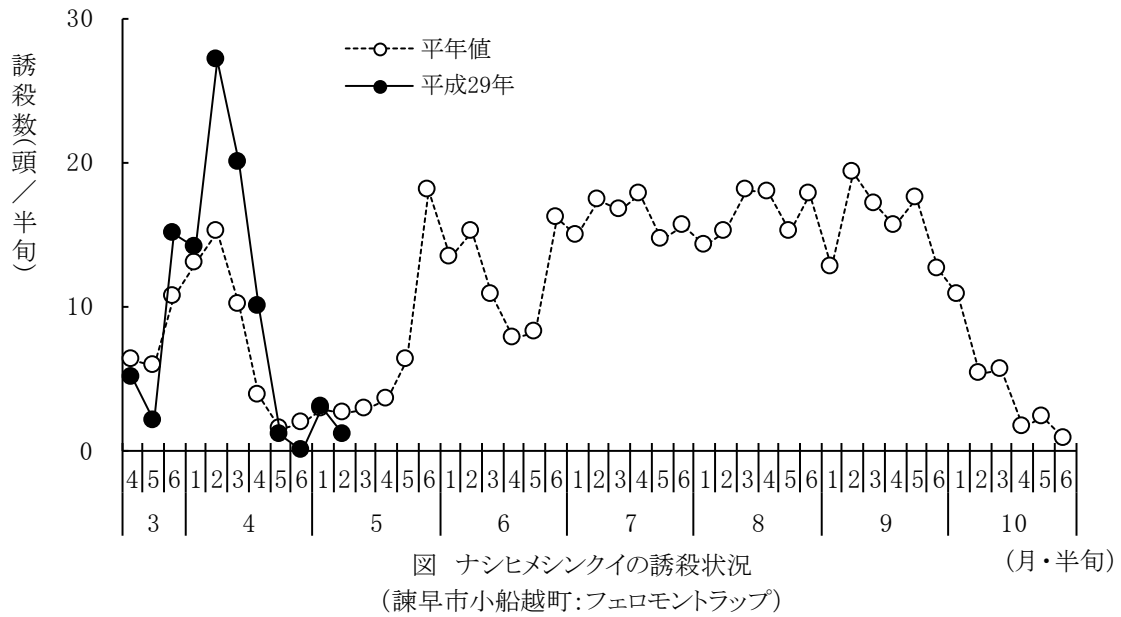
(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、やや多い数値で推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるので、がんしゅ病と同時に防除する。

なし

1. 黒星病

平成29年5月16日付け**病害虫発生予察注意報第2号**による。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(11筆)の結果、寄生新梢率は4.9%(1.0%)、発生圃場率は63.6%(26.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

ぶどう

1. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.6%(0.1%)、発生圃場率は25.0%(15.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

感染した枝葉は除去して園外へ持ち出し処分する。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害花房を認めない)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している。

ウ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

かんきつの項(ア、イ、エ)参照。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は平年並であった(平成29年2月15日付け**平成28年度病虫害発生予察技術情報第3号**参照)。

イ フェロモントラップ調査(諫早市小船越町、多良見町、南島原市有家町及び西海市西彼町)による誘殺数は一部地域を除いて、平年並で推移している(図)。

ウ 巡回調査および防除員等の報告によると、5月3半旬まで発生を認めていない。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期や飛来数は園により異なるので、こまめに見まわって早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除する。

イ ハウス栽培では、開口部を防虫網(4mm目以下)で被覆し侵入を防ぐ。既に防虫網を設置済みのハウスでは破損箇所がないか点検し、破損箇所は補修する。

ウ なし等では袋かけ作業が遅れないようにする。

エ 収穫期が近い樹種については、使用薬剤の収穫前使用日数に留意して適正に使用する。

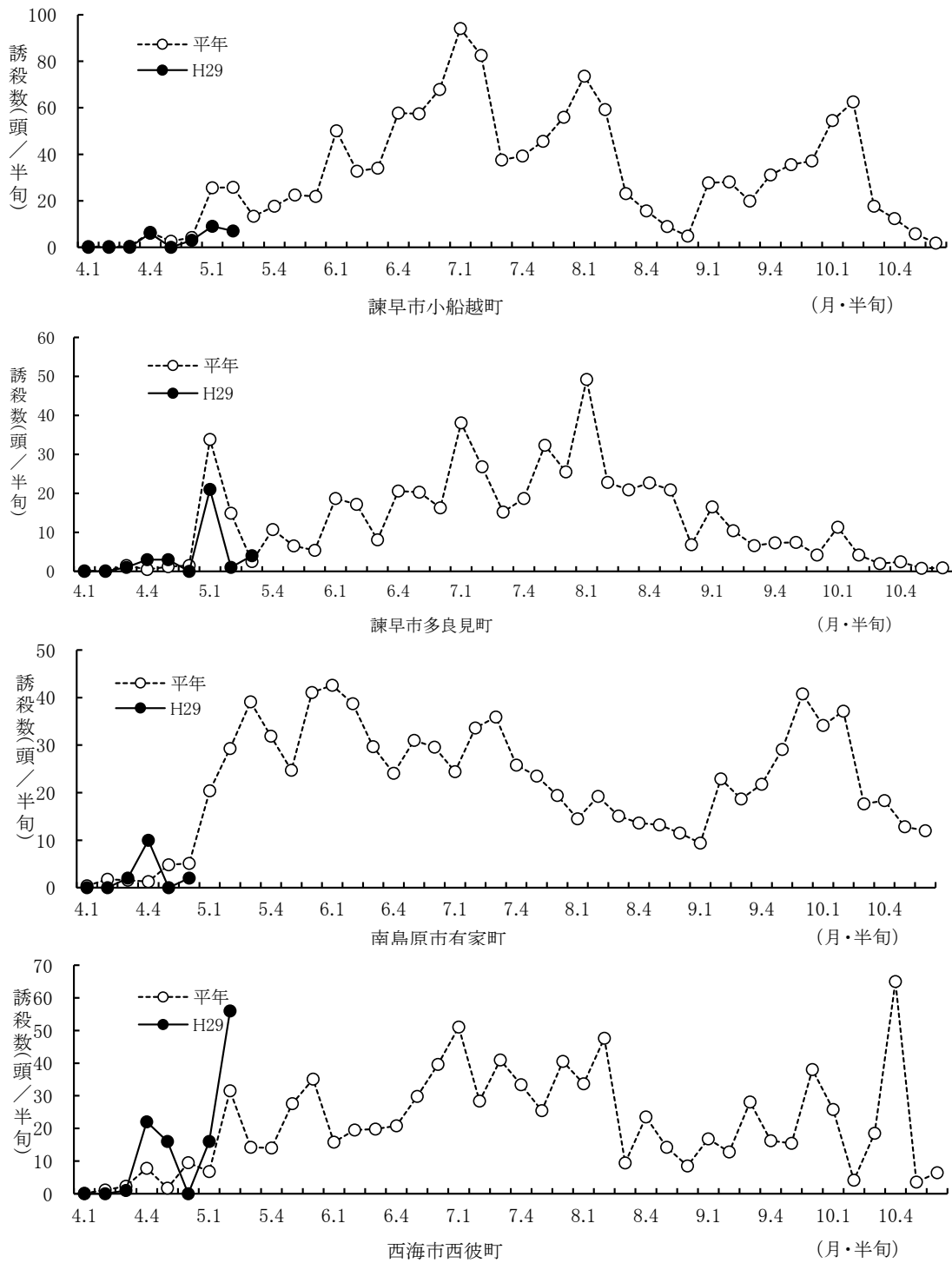


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉数0.0枚、発生圃場率0.5%)。

2. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.0枚、発生圃場率0.6%）。

イ フェロモントラップによる誘殺時期（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で、誘殺量はやや少なく推移している（図）。

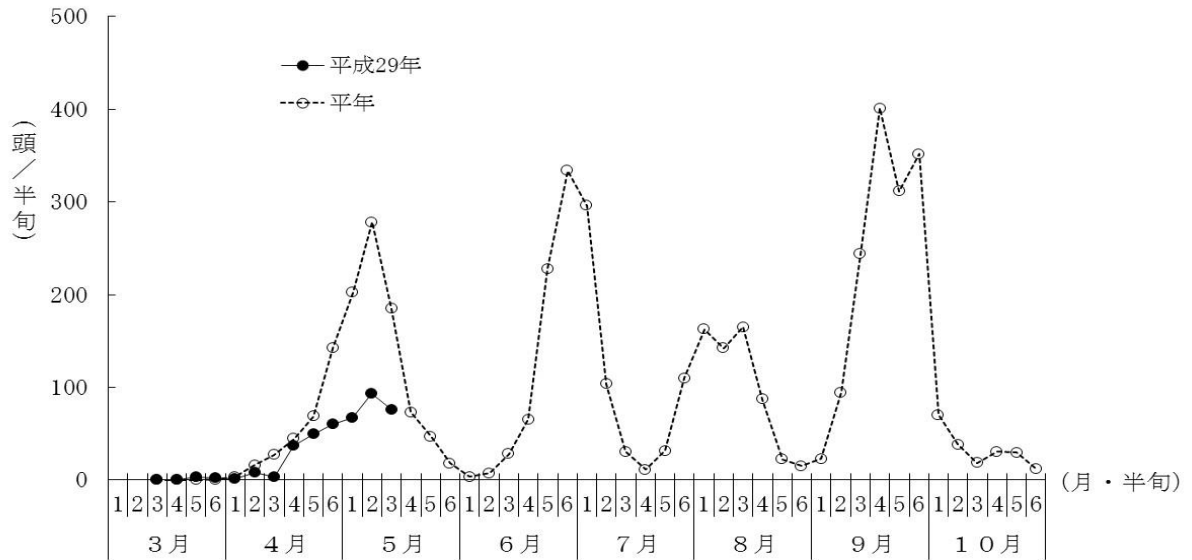


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

3. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 5月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.2枚

（0.0枚）、発生圃場率は10.0%（2.5%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺時期（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年よりやや遅く、誘殺量はやや少なく推移している（図）。

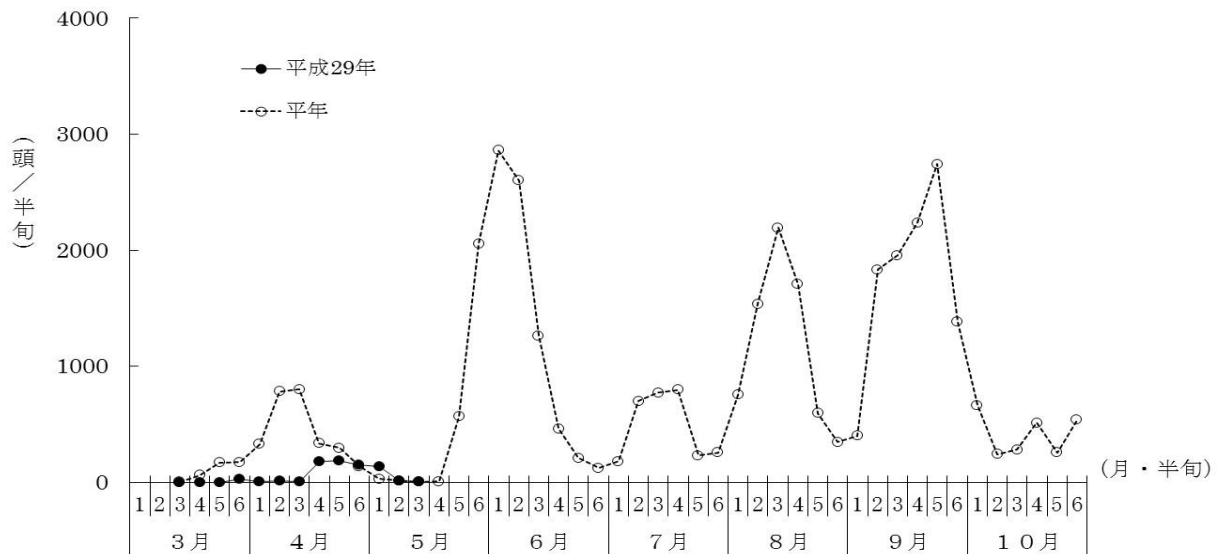


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

4. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は1.9頭(2.0頭)、発生圃場率は65.0%(46.9%)であった。
イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容
発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠
ア 5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は7.0頭(6.8頭)、発生圃場率は55.0%(61.9%)であった。
イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。
- (3) 防除上注意すべき事項
薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

6. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は3.0%(4.9%)、発生圃場率は15.0%(34.4%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
平成29年5月2日付け**病害虫発生予察防除情報第4号**を参考にし、適期防除を行う。

7. カンザワハダニ

- (1) 予報内容
発生程度 並
- (2) 予報の根拠
5月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.3%(1.6%)、発生圃場率は15.0%(23.8%)であった。

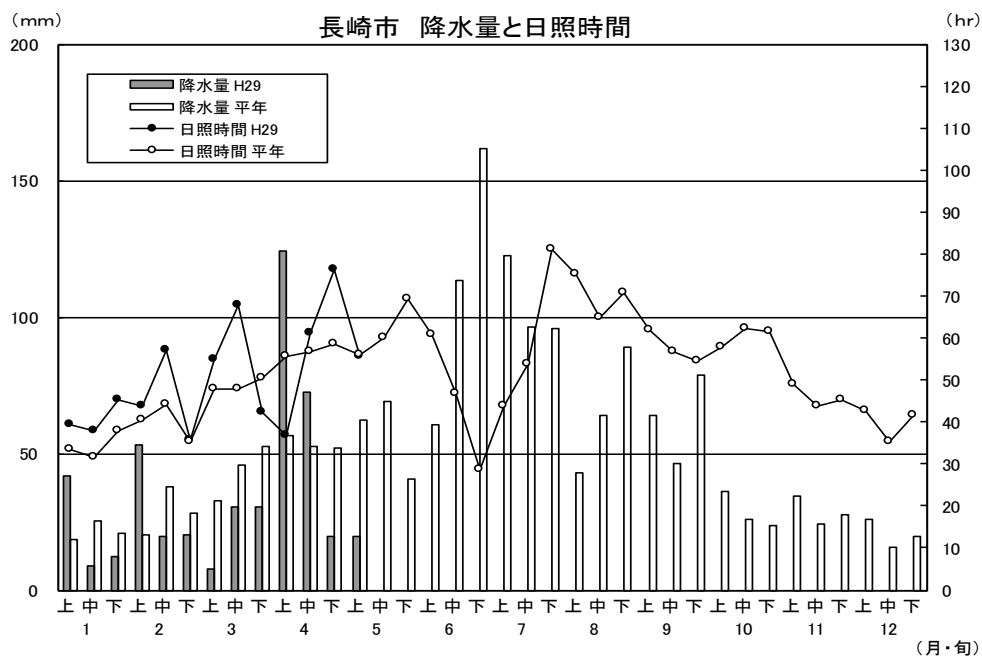
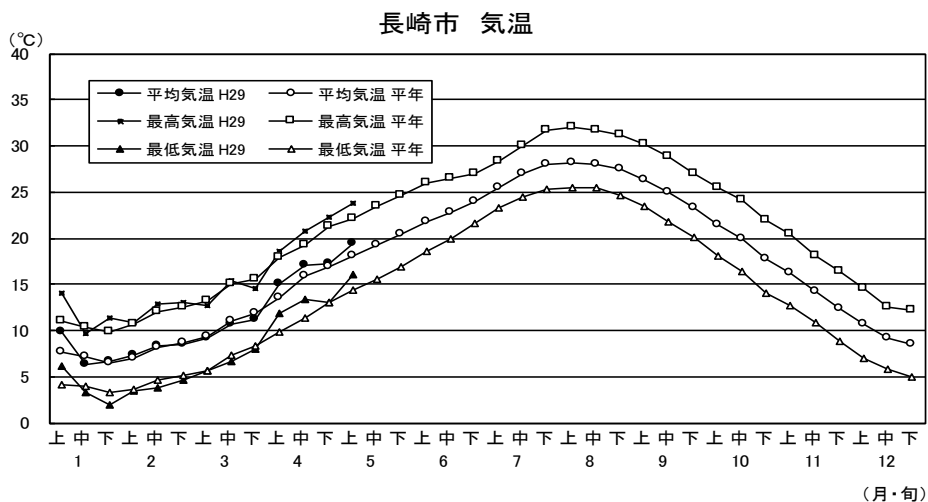
【参考】
気象

(平成29年5月11日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	40	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

※予報対象地域：九州北部地域

平成29年の気象経過 (長崎地方気象台)



○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnpn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

